

## (5) ブドウ

### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
べと病 ( <i>Plasmopara</i> )	①新梢の病患部を早く取り除く。 ②落葉を放置せず、土中深く埋めるなどの処分をする。	① 5 月上中旬～7 月中旬に農薬を散布する(収穫前日数に注意)。 (例) キャブタン水和剤 (オースサイド水和剤 80) シアゾファミド水和剤 (ランマンフロアブル) シアゾファミド・TPN 水和剤 (ドーシャスフロアブル) チウラム水和剤 (チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル) マンジプロバミド水和剤 (レーバスフロアブル) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセンフロアブル、ペンコゼブフロアブルなど) ②多発生園は治療効果のある農薬を散布をする。 (例) ホセチル水和剤 (アリエッティ水和剤) ③袋かけ後～収穫後は銅水和剤を中心に散布をする。 (例) 銅水和剤 (Z ボルドー、コサイド 3000、IC ボルドー48Q など)
<b>【参考事項】</b> 病原菌は落葉中の卵胞子で越冬する。発病適温は 22～25℃である。欧州系品種は弱く、米国系品種は強い傾向がある。本病害抑制には予防が特に重要なので、発病前から定期的に農薬を散布する。 QoI (ストロビルリン系) 剤の耐性菌が発生している。耐性菌の蔓延を防ぐために、同一系統 (RAC コードが同じ) 薬剤の連用は避け、ローテーション防除を心がける。		
黒とう病 ( <i>Elsinoë</i> )	①罹病枝及び巻ひげを除去し、剪定枝を適切に処分する。 ②徒長、晩期伸長しないよう施肥する。 ③新梢、果実の病患部を早く取り除く。 ④できる限り被覆栽培を行う。 ⑤罹病苗を持込まないようにする。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) ジチアノン水和剤 (デランフロアブル) チウラム・チオファネートメチル水和剤 (ホームイコート) チウラム・ベノミル水和剤 (ベンレート T 水和剤 20) ②展葉後に農薬を散布する。 (例) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセンフロアブル、ペンコゼブフロアブルなど) 銅水和剤 (IC ボルドー66D) イブフルフェノキン水和剤 (ミギワ 20 フロアブル) ③開花直前に農薬を散布する。 (例) 有機銅水和剤 (キノンドーフロアブル、ドキリンフロアブルなど) ④落花後から梅雨明けまで数回、農薬を散布する。 (例) イソフェタミド水和剤 (ケンジャフロアブル) シアゾファミド・TPN 水和剤 (ドーシャスフロアブル) シモキサニル・ファモキサドン水和剤 (ホライズンドライフロアブル) マンデストロビン水和剤 (スクレアフロアブル) ピラジフルミド水和剤 (パレード 15 フロアブル) ⑤多発園で散布する。 (例) テブコナゾール水和剤 (オンリーワンフロアブル)
<b>【参考事項】</b> 結果母枝や巻ひげの組織内に菌糸の形で越冬する。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。		
晩腐病 ( <i>Glomerella</i> )	①罹病枝及び巻ひげを除去し、剪定枝を焼却等適切に処分する。 ②発病房は除去処分する。 ③密植園は間伐して通風を良くする。 ④袋かけは果実への侵入を防止できるので、梅雨入り前に作業を完了する。 ⑤雨よけ栽培を導入する。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) ジチアノン水和剤 (デランフロアブル) チウラム・チオファネートメチル水和剤 (ホームイコート) チウラム・ベノミル水和剤 (ベンレート T 水和剤 20) ② 4 月から梅雨期にかけて農薬を定期的に散布する(収穫前日数に注意)。 (例) キャブタン水和剤 (オースサイド水和剤 80) シアゾファミド・TPN 水和剤 (ドーシャスフロアブル) ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤 (ナリア WDG) (大粒種) (果粉の溶脱回避のため果実が小豆大までに散布する) フルアジナム水和剤 (フロンサイド SC) (開花直前～落弁期 但し、収穫 60 日前まで) フルジオキシニル水和剤 (セイビアーフロアブル 20) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセンフロアブル、ペンコゼブフロアブルなど)
<b>【参考事項】</b> 結果母枝や巻ひげの組織内に菌糸の形で越冬する。春期に分生子を形成して伝染する。発病適温は 25～28℃である。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。		

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
さび病 ( <i>Physopella</i> )	①落葉を処分する。 ②冬の間に中耕する。 ③中間寄主のアワブキ属植物を伐採する。 【参考事項】 中間寄主のアワブキ属植物の葉上に形成されたさび孢子、ブドウ枝組織内で越冬して再形成された夏孢子で伝染する。巨峰、デラウェアに発生が多い。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。	①発生初期から農薬を散布する。 (例) クレソキシムメチル水和剤 (ストロビードライフフロアブル) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など)
苦腐病 ( <i>Greeneria</i> )	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする 【参考事項】 病原菌は巻ひげなどで越冬し、4～9月にかけて孢子を飛散させる。発病適温は 20～30℃である。デラウェアに発生が多い。	①落弁期までに農薬を散布する。 (例) チオファネートメチル水和剤 (トップジンM水和剤)
房枯病 ( <i>Botryosph-aeria</i> )	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする。 ③排水不良園では排水に努める。 【参考事項】 病原菌の生態は苦腐病とほぼ同一である。発病適温は 25～30℃である。	登録農薬は無い。
白腐病 ( <i>Coniella</i> )	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする ③排水不良園では排水に努める。 【参考事項】 病原菌の生態は苦腐病とほぼ同一である。発病適温は 25～30℃である。	①開花期から幼果期に農薬を散布する。 (例) イブロジオン水和剤 (ロブラール水和剤) フルジオキシニル水和剤 (セイビアーフロアブル 20)
灰色かび病 ( <i>Botrytis</i> )	①枝の過繁茂を避け通風を良くする。 ②発病果穂は見つけ次第取り除く。 【参考事項】 前年の被害残さ上で菌糸や菌核の形で越冬する。春に分生子を形成し、風や降雨によって飛散する。発病適温は 15～23℃である。	①開花前と落花直後に農薬を散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシニル水和剤 (ポリベリン水和剤) イソフエタミド水和剤 (ケンジャフロアブル) キャプタン水和剤 (オーソサイド水和剤 80) 同一系統 (RAC コードが同じ) の農薬の連用は耐性菌が発生するので避ける。
褐斑病 ( <i>Pseudoce-rcospora</i> )	①落葉を処分する。 ②樹体内栄養が不足すると発病が多いので、深耕をし、肥料を十分に施して樹勢を旺盛にする。 【参考事項】 結果母枝や幹の粗皮間隙、落葉上で越冬する。発病適温は 20～25℃である。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩液剤 (ベフラン液剤 25) ②5月以降に農薬を散布する。(収穫前日数に注意) (例) キャプタン水和剤 (オーソサイド水和剤 80) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など)
チャノキイロアザミウマ	①イヌマキなどの防風樹を手入れする。 ②不用な副梢は早めにせん除して処分する。 ③冬季に粗皮はぎを行う。 【参考事項】 粗皮下、落葉下、浅い土壌中に成虫又は蛹で越冬する。年7～8回発生する。ほ場近くのチャやイヌマキなどは寄主植物となる。	①開花前から幼果期を重点に、早めに農薬を散布する。 (例) アクリナトリン水和剤 (アーデントフロアブル) (アザミウマ類) カルタップ水溶剤 (パダン SG 水溶剤) クロチアニジン水溶剤 (ダントツ水溶剤) シクラニプロール液剤 (テッパン液剤) スピロテトラマト水和剤 (モベントフロアブル) (アザミウマ類) フルキサメタミド水和剤 (グレースィアフロアブル)
フタテンヒメヨコバイ	①過繁茂を避け、通風と採光を良くする。 ②落葉などを処分し、園内の清掃に努める。 【参考事項】 樹皮の割れ目、落葉内、雑草中、家屋の軒下などに成虫で越冬する。年3回発生する。	①越冬成虫及び第1世代幼虫 (6～7月) を重点に農薬を散布する。 (例) アクリナトリン水和剤 (アーデントフロアブル) カルタップ水溶剤 (パダン SG 水溶剤)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
クワコナカイガラムシ	①越冬期に粗皮はぎを行う。  <b>【参考事項】</b> 卵のう内の卵塊で越冬、年2～3回発生する。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) 石灰硫黄合剤(落葉果樹)(カイガラムシ類)(発芽前) ②5月上旬～下旬に農薬を散布する。 (例) クロチアニジン水溶剤(ダントツ水溶剤)(コナカイガラムシ類) スルホキサフロル水和剤(トランスフォームフロアブル) (カイガラムシ類) ブプロフェジン水和剤(アブロードフロアブル)(カイガラムシ類幼虫)
ブドウトラカミキリ	①被害枝を健全部から切り取って処分する。 ②粗皮下の越冬幼虫を刃物で削りと捕殺する。  <b>【参考事項】</b> 年1回発生する。3～5齢幼虫が結果母枝の樹皮下で越冬する。	①収穫後の8月中旬～9月上旬(成虫の羽化最盛期)と10月上旬～中旬(ふ化～食入期)に農薬を散布する(収穫前日数に注意)。 (例) アセタミプリド水溶剤(モスピラン顆粒水溶剤) MEP乳剤(スミチオン乳剤)(大粒種、小粒種) ②落葉後の休眠期に農薬を散布する。 (例) MEP乳剤(ガットキラー乳剤)
コガネムシ類	①成虫は棚をゆらすと落下するので、地面にビニルシートを敷き、集めて処分する。 ②下草の管理に努める。 <b>【参考事項】</b> 2～3齢幼虫が根や堆肥などを食べて越冬する。年1回発生する。	①5～7月に発生を見たら農薬を散布する(収穫前日数に注意)。 (例)タ方から活動が活発となるのでタ方に散布する。 アセタミプリド水溶剤(モスピラン顆粒水溶剤)(成虫) シベルメトリン水和剤(アグロスリン水和剤)
ブドウスカシバ	①被害枝を切り取って処分する。 ②若い枝の被害を早く見つけて虫を捕殺する。 ③寄主植物であるエビヅル、ノブドウなどがほ場周辺にある場合には抜き取って処分する。 <b>【参考事項】</b> 老熟幼虫(枝内)で越冬する。年1回発生する。成虫は一見ハチに見える。	①成虫の羽化最盛期(5月中旬～6月上旬)とその10日後頃にあたる幼虫のふ化最盛期に農薬を散布する。 (例) カルタップ水溶剤(パダンSG水溶剤)(大粒種)(スカシバ類) フルベンジアミド水和剤(フェニックスフロアブル)(スカシバ類)
クビアカスカシバ	①虫ふんを目印に食入幼虫を探し、捕殺する。  <b>【参考事項】</b> 土繭(土壌表層)で越冬する。年1回発生する。成虫はスズメバチに擬態している	①成虫飛来期(6月上旬～8月中旬)に農薬を散布する(収穫前日数に注意)。 (例) カルタップ水溶剤(パダンSG水溶剤)(大粒種)(スカシバ類) フルベンジアミド水和剤(フェニックスフロアブル)(スカシバ類)
ハダニ類	①冬季の粗皮はぎを行う。 ②下草雑草の除去を行い、生息密度を下げる。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) 石灰硫黄合剤(落葉果樹)(発芽前) ②発生初期に農薬を散布する。 (例) ビフェナゼート水和剤(マイトコーネフロアブル) ミルベメクチン水和剤(コロマイト水和剤)